

令和6年度第2回長府警察署協議会会議録

開催日時		令和6年11月26日（火） 午後2時から午後3時26分までの間
開催場所		長府警察署 講堂
出席者	委員	田尾委員、空田委員、平山委員、富賀委員、下谷委員、藤野委員、 属委員 計7人
	警察本部	警察本部長
	警察署	署長、副署長、会計課長、警務課長、生活安全課長、 地域第一兼地域第二課長、刑事課長、交通課長、警備課長 計9人
議題		少年が加害者にも被害者にもならないための対策の推進

1 会長挨拶

本日はあいにくの天気となったが、委員の皆様には出席していただき感謝申し上げます。

先日、警察学校で開催された警察署協議会会長会議に出席した。会議では、周南署、山陽小野田署、長門署の会長等がそれぞれ活動状況を報告した。周南署は、外国人研修生対象の詐欺被害防止を目的とした防犯教室を開催するとともに、相手に合わせて4か国語のチラシを作成したこと、山陽小野田署は、署員が作成した警察官適格性診断のチラシを活用して委員とともに警察官募集活動を行ったこと、長門署は、職場体験の視察のほか、海でのレクリエーションにより署員との交流を深めたことを報告していた。それぞれの報告に対して活発な意見が出され、予定時間をオーバーするほど活気のある会議となった。

会議の後は、機動隊においてレスキュー訓練の視察や災害対応装備品の説明を受けるとともに、能登で発生した地震への対応状況も聞くことができた。能登の地震はニュースなどで見聞きしていたが、実際に災害現場で活動した警察官の話を聞くと、災害をより身近なものとして感じる事となった。

さらに、警察学校では食堂で学生と同じ昼食をとるなど、貴重な経験をした。学校内の案内を受けて「ここで一人前の警察官として育っていくのだな」と感じる事ができ、とても中身の濃い視察となった。

今回の諮問事項は「少年が加害者にも被害者にもならないための対策の推進」であり、重いテーマだとは思いますが、これからの時代の担い手を守っていくためにも大切なことだと考える。皆様の経験等を踏まえながら、積極的に意見を出していただきたい。

2 署長挨拶 (省略)

3 警察本部長挨拶 (省略)

4 前回会議で提出された意見への対応状況の報告（警務課長） 採用募集活動に関して、長府署における対応状況を説明した。

5 業務説明（署長） 資料に基づき、以下の項目について説明した。

- (1) 警察安全相談
 - ア 取扱件数
 - イ 主な相談内容と受理件数
- (2) 犯罪情勢
 - ア 刑法犯の認知件数・検挙件数
 - イ 人身安全関連事案の発生状況
- (3) 110番受理状況（受理件数）
- (4) 交通事故の状況

6 諮問事項説明（生活安全課長） 資料に基づき、「少年が加害者にも被害者にもならないための対策の推進」について説明した。

7 協議 (委員)

少し前はオレオレ詐欺などの話をしていたが、あっという間に闇バイトという言葉が定着するなど、変化のスピードがとても速いと感じている。地元の学生と話をしていると、みんな素直で闇バイトなど別世界のことと感じるが、長府地域でも発生する可能性があるかもしれないと思うと恐ろしい。

少年の健全育成については、まずは家庭からだと思う。社会の中で一番小さな組織は家庭であり、子供たちが小学生や中学生の時にしっかりとコミュニケーションをとって世の中の仕組みなどを教えることが大切だと思う。ゆとりの時代とは言っても、大人は仕事、子供は習い事などで忙しいというのが実情だと思うが、まずは家族での話合いや祖父母とのつながりを持つことが大切ではないか。

(委員)

闇バイトについて、匿名性の高いアプリを使用するという説明を受けたが、国などがそのようなアプリや誘導するためのサイトを、なぜ閉鎖しないのだろうか。悪意を持った者が犯罪に引き込もうとする段階で、なぜ止めないのだろうか。犯罪の募集から計画に至るまでネットを媒介としてサイバー空間で行われ、あとは犯罪を実行するだけという場合、警察も動きようがないのではないかと思う。警察の仕事は対人のイメージが強い。専門の機関や「サイバー警察」のような部隊を増やすしかないのではないか。今の警察は、実際の現場で起こる事件や事故の対応で手いっぱいなのではないか。規模は分からないが、警察部内にもサイバー犯罪対策の部署があると思う。そうしたサイバー対策の規模を大きくしていかなければ未然防止は難しいのではないか。

少年の検挙や補導人数が増加していることは分かったが、少子化が進む現在と過去を比べ、子供の総数に対する割合はどうなっているのだろうか。

前回の諮問事項で採用募集への取組状況について説明を受けたが、人口全体に占める子供のパーセンテージは変化せず、子供の人数だけが減っている中、他の業種を含め人手不足は続いていくと思う。若い人の採用も大切だと思うが、定年退職した元警察官の活用も考えてみてはどうか。警察官として長く勤務していた方は一般よりも正義感が強いと思う。そのような方が知見をいかして活躍できるような新しい部署をつくるなどの対応も必要ではないか。

(委員)

少年の健全育成は、家族によるところが大きいと思う。少年が闇バイトに近づくのは、家族にも相談できないなどの事情があるからではないか。また、学校に通わない子供は教育を受ける機会が不足しており理解力が育っていないのではないか。そのような子供たちが誰かに相談できる環境をつくり、社会や家庭から疎外された少年を保護していくことが大切だと思う。

ネット上での犯罪を防ぐには、サイバー空間への対処能力を向上させることが重要だと思う。サイバーセキュリティ対策として、民間から専門職を採用していると思うが、まだ追いついていないのではないか。サイトを完全に遮断することが重要であり、そのためには専門知識を持った人をもっと採用する必要があると思う。

(委員)

光市で発生した強盗予備事件で高校生や中学生が逮捕されたと聞いて驚いた。

ネットに関しては、大人より子供の方が知っていると思う。子供も大人も忙しい中、家庭内でのコミュニケーションが不足しているのかもしれない。子供は年齢が高くなるにつれ親と話をしなくなり、これが進むと孤立してしまう。孤立すると、何かに迷っても誰にも相談できず、その結果正しい判断ができなくなり、普通に考えるとおかしい話であっても乗ってしまうのではないか。昔は、夕食を家族一緒にとる家庭が多かったと思うが、今はそれが難しくなっている。家族間でコミュニケーションをしっかりと、何かおかしいと感じたときには声掛けを行うことが大切だと思う。子供たちが何を考えているのか知ること、子供の異変にも気付くことができるのではないか。

(委員)

「少年が加害者にも被害者にもならないための対策の推進」と聞いて、まず、いじめ問題が頭に浮かんた。

今は、親も子供もSNSの情報に育てられているように思う。スマホなどの画面に表示されるのは文字が多く、子供たちは活字で判断する傾向が強くなっているのだろうか。

確かに、画面越しの情報はすべてが正しく見えてしまう。ネットを利用していると、見たい記事に関連する情報が次から次へと現れ、何か別のところに誘導されているようで、ネットの怖さを感じることもある。時代の変化とともに規範意識も変化していると思うが、画面越しの情報だけでなく、実在する人の言葉に耳を傾けることも大切ではないか。

(委員)

少年の問題は、社会全体で取り組むべきだと思う。確かに家庭が基本だとは思いますが、それぞれの事情もあり、具体的にどう伝えていくのがよいのか難しさを感じる。

コミュニケーションが必要だという意見が多いが、身近な人の体験談は理解しやす

く実効性があるのではないか。近くにいる人が体験したリアルな声を子供たちに届ける機会が増えれば、社会全体へと意識が広がっていくと思う。私たちも会議の場だけでなく、様々な機会を捉えて伝えていく必要がある。

(委員)

私はSNSを利用しないので、闇バイトの話などを聞いても「本当にそのようなことがあるのか」と思ってしまう。

こうした犯罪から子供たちを守るためには、やはり家庭が大切で、しかも子供が幼いころから家族とコミュニケーションをとることが重要だと思う。忙しくて子供と接する時間がとれないのかもしれないが、それならどうすればよいのか。例えば正しい金銭感覚を養うため、お小遣いをもらったら収入と支出を把握させ、不足していれば少し我慢してお小遣いを貯めるなど、小さい時からの金銭教育も大切だと思う。クレジットカードの適切な利用もしっかり学ばせておけば、お金にまつわる怪しい話に引っかからなくなるのではないか。

8 本部長講評

各委員から様々なご意見をいただき感謝する。

サイバー犯罪への対応について、県警察は県内の犯罪を取り締まる組織であり、その上部組織として警察庁が存在する。これまでは警察庁に捜査する権限が無かったが、現在はサイバー特別捜査隊を立ち上げ、日本国内及び世界中で発生するサイバー犯罪に対処している。加えて各都道府県警察が協力し、サイバー犯罪の取締りを行っているところである。

定年後の採用について、今後、定年退職の年齢が65歳まで段階的に引き上げられる予定である。現在は60歳を超えて退職した警察官が交番相談員として勤務しているが、仮に65歳から70歳まで同じように勤務できるか考えた場合、やはり体力的な問題がある。将来、定年退職が65歳まで引き上げられるのを見据え、検討しておかなければならない課題だと認識している。

SNS型投資詐欺については、被害に遭われる方も多く、これまで以上に注意喚起を行っていく必要がある。

9 その他

次回会議の日程は、別途調整することとした。